

大関昌平と彼の仲間たち

北海道 大関おおぜき 範之のりゆき



大関範之氏と昌平君(右)
(北海道新聞 1998.2.28)

私は会社の経営で、妻は実家の店の切り盛りで寝るだけの毎日でした。子どもと話す時間もなく、次男の昌平は遊んでばかりで、工業高校によくやってきました。親の責任でした。

札幌掃除に学ぶ会の例会には、

妻と参加していました。1997年ころ、私が行けなくなったため昌平に頼むと、意外にも「いいよ。」妻を助けて大活躍したようです。

次の会は参加者が足りません。

彼の友だちに「おじさんのピンチ、助けてくれ」と頼むと、これも二つ返事でOK。彼らはポケ手で、肩をゆすつて集まりました。

しかし！ 奇跡です。便器に頭を入れ真剣に磨いたり、小便器をなめるように磨いたり、みな真剣に磨いているではありませんか。彼らの目が穏やかになった気がしました。

彼らの親を入れて、お店を貸し切り高校卒業パーティーを盛大に行いました。私は嬉しくてなりませんでした。

昌平は、まったく異例のことで

すが、大学入試で鍵山さん他の方に「高校生トイレ掃除日本一」という推薦状を書いてもらって、希望の大学に入りました。

さらに英国の大学院で学位を取得し、卒業式には家族でかけつけました。仲間も温かく歓迎してくれました。帰国後、昌平は「流体力学で仕事をしたい」と、外資の日本支社に入りました。

あのとき磨いたのは、便器ではなく夢だったのです。彼の仲間も、お爺ちゃんの夢床屋を継いだ者、人生の夢を売りたいとハウスマーカーで活躍する者、みな夢を磨き続けています。

鍵山さん、夢を磨く機会をいただきたきありがとうございます。幸運の連鎖は今も続いています。

札幌掃除に学ぶ会と

「きのとや」

北海道

長沼 ながぬま

昭夫 あきお



1983年「洋菓子きのとや」を創業した。6年後工房と事務所を新築し、外注に依頼していた清掃を、ある時から社員と手分けして行なうことにし、私はトイレ掃除を引き受けた。以来20年間、会社のトイレ清掃を続けた。

1996年ころ、高校の友人から「札幌掃除に学ぶ会」を作りたいたが、代表を引き受けてほしいと頼まれた。「なぜ私に?」と問うと、「会社のトイレを自分で掃除していると聞いた」と。そして有名なイエローハットの鍵山秀三郎さんが始めた、掃除に学ぶ会が全国に広がりつつあり、北海道でも是非作りたいのだ、と友人は熱く語った。

私は快諾し、1997年7月「第一回札幌掃除に学ぶ会大会」を、鍵山相談役も参加され、全国からの300名で高校で行った。私は11年間代表世話人を務めた。トイレ掃除には、終わった後は代えがたい満足感があるなど、不思議な魅力がある。

「掃除をすると気づく人にな

る」といわれる。仕事を効率的に進める上で、「気づく」ことは大事だ。「きのとや」では徹底的な清掃活動が定着し、社風にもなっている。社内の清掃は今も外注に頼まず、社員が手分けして行っている。地域清掃にも力を入れ、地域の皆様から喜ばれている。

「トイレ清掃をすると謙虚になれる」と教えられた。中小企業の経営者は孤独で、誰にも相談できないことも多い。また、少し成功するといふ有頂天になる経営者も多い。私は常に謙虚でありたいと願っている。

鍵山相談役の謙虚な振る舞いに、いつも驚き頭が下がる。相談役から直接学ぶことができた幸せに、心から感謝している。

(064-0914北海道札幌市中央区南14条西17-2-7)

掃除と公開研究会

千葉県

長谷川

昭次



中央教育審議会は、2020年の「学校における働き方改革」に関して、学校の掃除は外部者やボランティアに任せてできる限り教師に行わせないよう努めるべきである、と答申しました。

そのことで、教育現場では混乱が生まれ、積極的に掃除に取り組まれてきた学校も教師の協力や応援も期待できなくなりました。掃除というものは、答申に左右されて良いのだろうかと思ってしまうのです。私の体験をお話ししましょう。学校経営者として公開研究会は一大事業です。特に公立の小中学校の学校経営者なら一度は開催したいと思っているもの。それほどの公開研究会を、私は新たな学校へ着任する度に成就できたのでした。

S校でドアの穴から子ども同士の傷害事件が起きていました。すぐに破損箇所を修理、ブース内整理掃除、磨き。3年目、自主公開研究会を開催しました。

A校、トイレ窓に格子がなく、

すぐに取り付け。市教委より生活学習の研究指定を受けて、公開研究会。

Y校は、昼なお暗きトイレでしたので、明るいペンキを塗って掃除。学級崩壊のクラスが模範授業できるまでに立ち直りました。公開当日、授業の良さに称賛の声。

T校は、掃除も公開も何十年もの伝統を持つが形骸化。先生方のいざこざが多く、新風を取り入れ活性化を図りました。公開当日は校庭いっぱい参加者。校内全体が感極まりました。

これらの公開を可能にしてくれたのはすべて「掃除」が起因と思うのです。先生方が授業の質を高めるとともに、そして掃除の威力とが相まって、公開研究会を可能にしたのだと思っています。

掃除は心と心を つないでくれる

栃木県

植木

揚子



栃木掃除に学ぶ会では、世界遺産登録を記念し、「日光二社一寺大会」を2000年から4年に一度、オリンピックの年に開催しています。

2020年は、コロナ禍で中止。しかし、鍵山相談役の「例外

を作らない」の教えから、翌年6月27日コロナ終息の声が聞こえないなか、第6回大会を県内の仲間と絞って開催しました。

前日は大雨でさまざまな心配がありました。当日は曇一つない晴天となりました。日光の持つ素晴らしい力、荘厳な空気を全身に感じて、70名の心がひとつになりました。東照宮の石畳一つひとつを心を込めて磨き、参道の凹んだ部分を力を合わせて平らにしました。

参加者の感想を紹介します。「皆さんが自分の役割を黙々と進めている姿に感動しました」、「初めてお会いする人たちと楽しく掃除ができました」、「掃除前と後の風景が違う、自分の心が穏やかに変化していくのが分かりました」

改めて掃除の力に感動しています。掃除は、自分の習慣を見直す場、見直すことで工夫ができる場、自分の心と向き合う場です。掃除に学ぶ会は、仲間と汗を流し、心みがきの達成感を共有できる場です。

10年前、48歳で経営の経験がない私が父の会社を継いだとき、立場からくる無言の圧力と社員からの疎外感を感じました。しかし掃除が救いました。掃除が社員とつないでくれました。

父からつないでいただいたお客様、ともに働く仲間とのご家族があつてこそ仕事ができています。父の背中を見ながら掃除を始めて25年。やっと掃除が自分のものになっています。

人組み

京都府

山口 やまぐち

正幸 まさゆき



奈良の宮大工の、本やテレビでも紹介された西岡常一さんは言葉を残しました。

「木の癖組は人組み、人組みは人の癖組み」

掃除の会は、正にこの通りでした。癖のある人が多かった。特に中小企業の社長が多く集まって、個性豊かな人たちがたくさんおりました。

この人たちに会社員や主婦が朝早く集まり、トイレ掃除や周辺のごみ等の掃除を始めると一心不乱にやりました。こういうことは掃除の会独特の行動でした。

私は最近の掃除の会は参加していませんが、この雰囲気はそのままでしょうか？ 熱い何かが流れていました。

西岡常一さんは、若い大工にはほとんど語り掛けはしなかったそうです。黙って仕事を見ていて、見本を見せると若い大工は唸っ

たそうです。

鍵山さんは声をかけましたが、見本を見た人は感嘆の声を上げていました。

掃除の会も人組みをして、癖のある人達をうまく動かしていたと思います。それは鍵山さんのカリスマ性にあると見ています。掃除の会は、全員の心が寄り添った会でした。

(615-8221 京都府京都市西京区上桂東ノ口町

掃除が

私の人生を幅広くした

岐阜県

中田^{なかだ}
智洋^{ともひろ}



私の町は岐阜県中津川市。職業は野菜生産者で、農産物直売所「ちこり村」も運営しています。市は「掃除に学ぶ会」発祥の地・

大正村の隣町で、会の設立当初から参画していました。掃除の会で一番大きな影響をいただいたのは鍵山秀三郎さんです。

「大きな努力で小さな成果」
「良樹細根」など座右の銘をたくさんいただきました。

その私たちが中津川掃除に学ぶ会を立ち上げたのは、1996年ころです。毎年春と秋に、300人前後に参加いただき、中津川市内の学校を会場にしての活動でした。参加者が多いのがリーダーが足りません。隣町の東海神栄電子工業の田中義人社長に応援いただき、道具とリーダーをお借りしての活動でした。私の会社も独自の掃除活動に取組み、毎年4月1日の入社式直後は半日間のトイレ研修です。

この行事は20年以上続いていきます。ある年には、NHKがこのトイレ掃除研修の取材に入り全国に放映されました。社員もこの研修のことは何年たっても記憶しています。

一昨年のことです。入社社員が多く研修で掃除をするトイレが足りません。市内の公園や駅のトイレを探したのですが、どのトイレも予想外にきれいなのです。この町がトイレ掃除を市民運動にして20年が経ちましたが、公共のトイレがみなきれいなのです。これも掃除に学ぶ会活動の賜物だと思います。

掃除を通して身につけた人生観、経営観が、今の私を形成していると確信しています。

(509・931岐阜県中津川市千旦林1-15)

鍵山掃除道に救われて

福岡県

大下

英勝



私は、1994年大正村での第2回大会に参加し、友人の石丸龍さんは、第3回に参加しました。掃除の魅力に感動した私たちは、北九州に会をつくろうと意気投合しました。

1995年6月18日、市立大蔵小学校を会場に、第1回「北九州掃除に学ぶ会」を開きました。

全国に会ができつつある時期で、相談役は都合のつく限り東京から駆けつけ、後押しされました。私たちも相談役のご来場をお願いし、組織化を急ぎました。今「清風掃々」編集長の縄田良作さんもお1人です。

道具や技術指導はイエローハット福岡店にお願いし、早朝福岡からトラックで運んでいただきました。その後も大変なサポートをいただいで感謝しています。

会場探しには苦労しました。お願いに行くと、「掃除など、罰でさせるものです」といわれたこともあり、学校の掃除への理解はまったく低いものでした。

1995年は大蔵小を入れ2校、1996年2校、1998年1校、1999年2校、2000年1

校と、半年に1校程度のペースでした。会場が決まると喜んで、それに向かつて皆が力を合わせた楽しい時期でした。

世に知られていなかった「掃除」を知ってもらうために、1999年小倉のホテルで鍵山相談役の講演会を開きました。約400人が集まり、DVDも制作販売し啓発に努めました。

私は相談役の素晴らしい人間性の虜になり、「この人について行こう」と決め、経営の参考にさせていただきました。会社は苦しい時期も、掃除を続けていたおかげで乗り切ることができました。

会社は順調に発展し、次の者に後を託すことができ、鍵山相談役に深く感謝しております。

(805-0008 福岡県北九州市八幡東区枝光本町7-7-901)

トイレ掃除で人生大変革

「やっておいてよかった」

鹿児島県

田原 憲夫
たはら のりお



京セラ鹿児島工場に勤めていたとき、知人に鍵山相談役の書籍を紹介され、お掃除に関心を持った。

「掃除に学ぶ会」に初めて参加したのは、2006年5月21日、市立霧島中学校であった。衝撃的だったのは、リーダーが何のため

らいもなく便器に素手をつっ込んで説明を始めたときだった。思わず引いてしまった。この人たちが頭がおかしいのではないだろうか、と正直思った。終了後、何とも清々しい気持ちで湧いてきて、頭がおかしかったのは私だった。

それからすっかりトイレ掃除の虜になり、各地の「掃除に学ぶ会」に参加した。トイレ掃除だけでなく、イベント・講演会にも参加した。その結果、鍵山相談役とお逢いする機会が増え、様々な教訓を学び、自分の人生が様変わりした。

2010年12月「鹿児島掃除に学ぶ会」代表世話人鎌田善政社長の助言により、「薩摩隼人心洗組掃除に学ぶ会」を発足させていただいた。「鹿児島掃除に学ぶ会」

の下請け的に、お手伝いをしていく。「便教会」を含め、全国に多くの友人ができ、充実した人生となったのは、「掃除に学ぶ会」に参加し続けてきたお陰である。

森信三先生の「天から与えられた封書」に入っている人生の生き方のように、トイレ掃除にも教訓が一杯入っている。15年も続けていると、生活の一部になり、人生の経典となった。

身近にこんなに素晴らしい教材があるのに、やらない人はもったいない。「やっておけばよかった」「人生でなく」やっておいてよかった」「人生、一人になるうが、身体が続く限りトイレ掃除を続けていく覚悟である。

(899)鹿児島県霧島市隼人町東郷402